

研究通信

特別号

1991年7月10日刊
研究会
会務局
事務局
同志社大学人文科学研究所
庄司俊作
京都市上京区今出川通向丸東入ル
TEL 075-251-3957

村落社会研究会事務局からの呼びかけ

新しい共通課題の設定のために、そしてまた、研究会の今後の運営のために、すべての会員諸兄姉のご意見をお聞かせてください。

一九九〇年十二月 事務局

今年一月に実施したアンケートを公表いたします。当初、事務局で集約のうえ公表することを考えましたが、生のままの方が会員の参考になるかと判断し、回答をそのまま掲載することにいたしました。アンケートでは事務局から「呼びかけ」を行ない、回答があまり散漫にならないよう注意しましたが、多様な回答が得られました。アンケートは、今年度の大會共通課題を決定するに当たって大変参考になりました。回答を寄せられた多数の会員の方々にお礼を申し上げます。

なお、掲載は個人別にし（到着順）、(1)現在の研究テーマ、(2)現在の調査対象地域、(3)(1)以外に現在関心あるテーマ、(4)村研の共通課題に関する提案、(5)村研の運営全般に関する意見、の順とします。記載のない項目についてはカットしました。また、アンケート回答用紙に氏名記入欄を設けなかったため、一部お名前が落ちている会員の方もおられます、お詫びいたします。

(事務局)

今日、日本の農業と農村は国際状況の中で、それにもまして国内にも厳しい位置に立たされている。この中で村研は近く迎える四十周年（一九九二年）を一つの節目として、今までの研究成果を受け継ぎつつ、今日生起する重要課題に追って行き、新しい今日の共通課題を模索していくなければならない。さきの運営委員会（一九九一年十月七日）では、一九九一年度の共通課題名の設定に至らなかった。そこで今回、事務局はすべての会員に別紙のような型式で、会員の現在の研究テーマ、村研の共通テーマ設定への提案、および村研運営への具体的意見を求めることにした。

(1)振り返れば、蓮見彦彦会員は、村研三十周年を目前にして三十年間を振り返り、共通課題の設定を吟味して、「村研三十年の軌跡と今日の課題」（「研究通信」第三五号、一九九一年）を記した。その中で、「この三十年間の村落研究がはたしてそれぞれの時期に適切な問題意識をもって対象に迫り、その時期の村落社会にとって解明されるべき課題を把握していたのか否か」（P・4）と問い合わせた。

村研三十周年をへて、その後の共通課題名は次のように示される。

一九九一年度 農政と村落

一九九二年度 土地利用秩序と村落の土地管理機能

「六〇年度 土地と村落—村落の変貌と土地利用秩序—

「六一年度 土地と村落—戦後土地所有の変化と地域農業—

「六二年度 農村社会編成の論理と展開—転換期における家と村落—

「六三年度 農村社会編成の論理と展開—転換期の家と農業経営—

「六四年度 農村社会編成の論理と展開

この八年間のテーマ設定は、蓮見会員の問い合わせなどのように関わってきたのであろうか。

(2) 最近の「研究通信」を見ると、村研三十周年の直後（六三年一月）に現在に、愛知大学担当の事務局で「会員研究動向」（「研究通信」第三号、六三年）をまとめたことがあり、それには一七一名の会員（約半数）から回答が寄せられていた。その回答からあらためて会員の多様な問題関心をつかがい知ることができる。しかし、これらの問題関心をいくつかも集約して提示する事はむずかしい。この「会員研究動向調査」は、会員相互の情報交換として有益であったが、それ以外に、どのように有効に利用され、あるいは共通課題設定のうえに反映されたか不明確である。

(3) 現代の農業・農村をめぐる厳しい状況の下で、「イエ・ムラ」論の方法的有效性がますます問われるようになったこの間、運営委員会において大会の共通課題について論議する中で、以下のよ的なテーマ・意見が出された。

① 「イエ・ムラ」論の意義と問題点に関する現代的総括。

② 「イエ・ムラ」論の再検討として、農協、生産組織、土地改良区などのテーマ化。

③ 地方、地域、コミュニティ論の検討。

④ 環境問題のテーマ化。

⑤ 産直、有機農業、ナショナル・トラスト運動、リゾートなどのテー

マ化（「ニュー・ファーマーズ」の研究）。

⑥ 国際比較論の積極的導入。

⑦ 欧米における新たな農政理念（「持続的農業」）の定着に対応した農村研究の検討。

以上の問題をふまえて、事務局では、アンケートという形で、共通課題を摸索するための試みをいまあらためて提示し、会員諸兄姉の協力を得たいと願う次第である。

氏名	山 本 博 史
分野	農村社会学・経済学・協同組合論

(1)①農協・生協・漁協・森林組合など各種協同組合間の提携による産直と地域づくり実践の研究②アジアの食料・農業問題と協同組合の実情に関する調査研究③日本・タイ・韓国の米生産・流通・管理に関する比較研究(文部省国際学術研究による)

(2)①国内……島根県雲南地区、宮城県下、その他②海外……タイ・韓国、ASEAN諸国

(3)①アジア発展途上国の農村事情と農民組織の自立的発展にむけての社会経済条件について②アジア農業経済自立のために日本のODAはどう改善されなければならないか。NGO援助の弱点は何か。③環境保全型農業経済の日本とアジアにおける具体的基礎条件づくりについて。

(4)国民の食生活の安全性確保と、自然環境保全型農業経済の表現にとって、農山漁村の社会・経済をこれ以上こわさないようにするために、第一次産業を守りながらそれなりに豊かな生活を保障するために何が必要か、その実践的・実証的な研究成果の集積。

(5)①課題別・分野別に分科会をもつてはいかがでしょうか(大会とは別の時期がよい)。②共同調査研究はできないでしようか。かつて九学会連合がとりくんだような、実証研究が村研で実現できないか。とくに大きく変化しつつある「日本の農村」と、新しい運動や挑戦の芽さえを解明できればと思います。

氏名	池 田 義 孝
分野	家族社会学

(1)社会変動と個人のライフコース。地域社会の構造や変動といったマクロな変数を、個人のライフコースのパターンやその変化といったミ

クロな変数でどこまで説明できるかに研究の関心があります。

(2)①山村・山梨県北都留郡大垣外、長野県飯田市下久堅②漁村・千葉県銚子市外川③地方都市・福島県福島市④都市・東京都新宿区

(3)家族と親族の日中比較。

氏名	黒 崎 八洲次良
分野	農村社会学・社会史

(1)①明治前期の長野県中信地方の集落神社の再編過程②漆器集落における家印、屋号、家名などについて③明治前期の長野諸町村の戸口と域のまつりなどというテーマはどうか。

□地について

(2)長野県中信地方、同木曾郡植川村

(4)しばらく共通課題をやすみ、"ムラ" "集落" "家" をふまえた自由報告を重ねてみるのはどうか。あるいは、"葬式"、氏神の祭祀組織、地域のまつりなどというテーマはどうか。

氏名	佐 藤 康 行
分野	農村社会学

(1)日本およびアジアにみられる精神的・文化的価値。

(2)新潟県内の農漁村。北タイの農村。

(3)アニミズムと仏教の各民俗生活における論理。

(4)外国の農村研究が盛んになっていることから、外国の研究を特集で組んでみてはと思う。特に、アジアの農村研究を希望する。欧米中心の価値観が後退し、アジアのもつ精神的・文化的価値観が注目されてきていることから。

(5)"研究通信"に気楽に、しかも簡単でもよいから、調査に行つてきた感想をのせられるようにしてほしい。昨年、北タイの調査から帰ってきた思うのは、会員個人個人がもっと気楽に学会誌(通信)を利用できる場にすべきで、お互いに誰がどんな調査をしてきたのかをいち

はやく知りうることが大切だと感じた。

氏名	野
	農村社会学

- (1) ①環境社会学的視点からの農業空中散布問題の現状分析 ②有機農業運動の地域的展開に関する実証的研究 ③市民農園を介した農村リゾート開発

(2) 山形県高畠町、秋田県協和町、羽後町他

(3) 村落の景観保全

(4) 農村社会再編成への展望。現状分析や、歴史分析にとどまるのではなく、将来展望を出せるような大胆な課題設定を!

(5) 「自己保身」のための研究発表に終わらないためにも、大胆な問題提起、視点の提示を思いきってやれるような雰囲気づくりが必要。そのためには、若手研究者のみによる奨励部会でも設け、批判のための批判でない建設的なディスカッションを開催するような試みが必要なのでは?

氏名	菅野正
分野	農村社会学

- (1) ①農民支配の社会学 ②農本主義の研究
(2) 山形県庄内地方

(3) ①地域開発と地方自治 ②日における食糧問題

氏名	清水みゆき
分野	経済史

- (4) 現代農村における社会関係、社会集団の変質—営農・販売・生活と関連して—
(5) 「イエ・ムラ」論と「現代農村問題」の二本立て、で考えていくこともよいのではないか。

氏名	清水みゆき
分野	経済史

(1) 日本資本主義における公害試論
(2) 愛媛県新居浜市及び栃木県上都賀郡足尾町
(3) 危機の時代における変革の主体としての市民運動。主に農民運動から労働運動へ、そして市民運動への変遷。
(4) プリントにあるテーマは大きな柱として①イエ・ムラ・共同体論、②環境問題、③国際比較の3点にあると思われます。タイムリー性からいえば、プリントの④⑤⑦にかかる環境問題という視点は新しい方向性を持つといえるのではないか。

氏名	白樺久
分野	農村社会学

- (1) 農山村（特に山村）の社会構造変動
(2) 北海道津別町
(3) 都市問題（都市市民の生活感）

氏名	西村卓
分野	経済史

(1) 明治前期における農事改良運動
(2) 福岡、京都、島根、長野
(3) 農業技術の展開とその担い手—明治農法成立の理論的再検討—
(4) 農村再生のそれぞれの道の可能性—歴史的教訓を鑑みながら—

- (1) 都市の生活様式論 ②環境問題 ③地域開発論
(2) 福岡県、山口県、広島県を中心とした中国・九州地区。
(3) ①都市の生活様式論 ②環境問題 ③地域開発論

- (1) ①都市近郊農村の混住化問題 ②農山村の担い手問題（婦人労働力も含めて）③農業経営に対する社会学的アプローチ④農山村と都市との交流⑤都市消費者の農業教育⑥農協組織・事業論
(2) 福岡、京都、島根、長野
(3) 農業技術の展開とその担い手—明治農法成立の理論的再検討—
(4) 農村再生のそれぞれの道の可能性—歴史的教訓を鑑みながら—

(5) 各地域ごとの個性を基礎とした下からのつみあげによる会の活性化

氏名	野	歴史学
----	---	-----

(1) 近代日本（二十世紀初頭）地域社会論

(3) ①近代日本の地域社会と国家政策。②近代日本の思想（思潮）と地域社会の編成。

(5) 大会は、研究通信を前提にしたもので、しかも大会参加者の理論・視角・視点をクロスさせるような議論を誘発させるようなものであつて欲しい。

氏名	武 笠 俊 一
分野	農村社会学

(1) 戦後の農村の変化の意義づけ②江戸時代の農村変化と社会発展の関連

(2) 岩手県県南の農村

(3) 東南アジア社会

(4) ①「イエ・ムラ」論の再検討というような課題は、不毛なものだと思ふ。②戦後農政の積極的な評価、あるいは、戦前との連續性の検討

(5) 研究通信はあまりにマンネリ化している。少し、新しい試みをしてほしい。

氏名	東 敏 雄
分野	経済学

(1) 時の塊としての地域社会における生産力担当層の「歴史的資質」

(2) 茨城県牛久市域諸村

(3) 高度経済成長期における日本農業の労働力基盤

村落社会研究会の研究テーマの一つとして

これまでの村落社会研究会の研究蓄積を次のような考え方のなかで

総合することはできないものでしようか。もちろん、共通課題というようなものでなく、数あるテーマのうちの一つということですが。

①日本の近現代を念頭において、ある特定の町村について、幕末期以降百何十年かの時の流れのなかに、いくつかの「時の塊」めいたものを検出できないものでしょうか。この場合、既成の一国史的な物差しによって具体的な地域を料理するのではなくて、あくまでも、それぞれの地域に固有な具体的な事実によって「時の塊」を認識する方法をとるということになります。したがって、いま「幕末期以降」というような表現を使いましたが、ある地域によっては、これとは違った時期が始点となるということも十分に考えられるでしょう。

②「時の塊」と表現しましたが、それが歴史性を与えられた地域社会なのだと考えます。とにかく、ある塊は同じ地域の他の塊と比較してそれぞれ特徴を持っているはずです。特徴を持つていなければ塊にはなりませんから。この他とは区別される特徴が形成されてくる過程を認識することが重要なのではないかと思います。国民経済を形成した近代・現代社会では、一つの国としての動向によって地域が影響を受けることは当然ですけれど、そうではあっても、各地域に特徴的な過程があると考えます。

③塊を塊として、それに特徴を与えるものは地域における人間関係、つまりは社会関係であるうと思います。経済のほうから一般的に言いますと、時々の技術水準、社会的経済的条件によって規定された労働組織、そのうえに立つ基本的な生産手段の所有関係、このようなものが基本となるのでしょうが、具体的な地域について考える場合には、たとえば教育の分野を含むような、よりきめの細かい観察が必要なと思っています。

④きめの細かさを求めるこことによる過度の拡散を防ぐためには、共

通な認識枠を設定することが必要になるのではないでしようか。やはり、具体的な地域における主体的条件に注目したいと思います。つまりそれぞれの地域の、それぞれの時の塊を中心的に担った人達、リーダーからそれに共鳴する人達を含めて、これらの人達の「歴史的資質」という概念は設定できないでしょうか。この「歴史的資質」がどのような要素によって構成されるのか、それ自体が一つのテーマでどうが、とにかく、これらの人達の意識と行動を規制した要因を、具体的な時の塊の中で探ることが重要な課題になるはずです。もちろんその人たちの行動様式それ自体が、歴史性を与えられて問題となるのは当然です。この場合、歴史性を与えたイエ・ムラは重要な役割を果たすものと考えられますが、どうでしょうか。

⑤このような形での地域研究の広がりと、研究成果の集積が一定の量に達したとき、これらを総合し、理論化する形でより昇華された認識が形成されるのではないかでしょうか。このような研究は、われわれが現在を考える場合にも、有力な理論的な手段を提供してくれる可能性もあり、その意味でも現代性があると思います。つまり、たとえば環境その他といったような現代的な問題についての村研会員の研究とも、主体的条件としての人間の「歴史的資質」という次元で、関係を持つるものと思います。

以上、論旨を推敲することなく、書き綴りました。アンケートに対し、何か書かなくてはと思って一筆した次第です。どうも、アンケートの欄にぴったりは整合しないので恐縮です。適当に処理して下さって結構です。

氏名	
分野	農村社会学
（1）農村集団の研究	

氏名	池上甲一	分野	農業経済学
（2）山形県、茨城県			
（3）農民心理、意思決定論、官僚組織、農協			
（4）村落構造または家族構造の国際比較			
（5）関東は会員も多いのでもう少し小研究会を多く開催しても良いのではないか。			

氏名		分野	経済学
（1）農業工業の経済的分析、とくに、小麦の生産、流通、加工を中心に			
（2）①農業水利・土地利用の比較研究②農村自治と農本主義・満州分村移民にみる③環境保全・形成と村落			
（2）京都府丹後地域、長野県佐久地方、滋賀県琵琶湖集水域、タンザニア国キリマンジャロ州			
（3）①米対策と農村一減反・市場開放問題と農村の対応②都市農業と地域社会③平山間地帯農村の社会的再生産の危機と可能性―農村・都市の連帶による―			
（4）①環境保全・形成における地域社会形成の現代的意味②農村地域における農産物市場開放問題への対応原理			
（5）①大会のもち方にちはおむね妥当である。とくに、自由報告の時間については堅持していただきたい。②原理的問題と現実的問題とを有機的に結びつける必要がある。とくに現在の農村の現実に鋭くせまるような共通課題設定も時には必要である。③若手研究者の組織化のための方策を考えたい。高齢化（村研の）、村ばなれ（若手研究者）の傾向の中で、どういった対応が可能か。			

(2) 2~3年間での。北海道十勝、北見、埼玉県能谷市など。

(3) やはり、“イエ・ムラ”的構造と機能、さらに、この点の国際的な比較が重要なように思える。

(4) “農村社会学”にはシロウトの身ですが、“呼びかけ”的ななかにもあるように、“イエ・ムラ”的（論だけでなく、そのものの！）意義と問題点を徹底的に総括すること（戦後日本資本主義構造の編成に）。

(5) まだ、入会したばかりの者なので、“意見”らしいものはいえませんが、このような“アンケート”（→“呼びかけ”的内容が良い！）をすること自体から、当研究会の“良さ”がわかります。なにかやる気をかきたてられます!!

氏名	杉 岡 直 人	野
分野	農村社会学	

(1) 都市と農村の交流を農村の主導性、主体性を生かすことを前提に（生産・流通・人的交流を）体系的にとりあげる。

(2) 幌加内町

(3) 農村・漁村の高齢者問題

(4) 行政計画についてとり上げることが重要ではないか。特に地域や地方の時代を考える上でビジョンと住民の参加が問われている。

氏名	交 野 正 芳	野
分野	農村社会学・社会福祉・社会病理	

(1) 地域にもとづいた意味的世界を研究対象とし、その意味的世界の統合・解体の諸相を把握するための方法の探求。

(2) 浜松市とその周辺地域、愛知県東三河地方、名古屋都市圏

(3) コミュニティ概念を軸とした地域社会の比較研究（欧米と日本）

(4) 地域研究における農村・村落研究という観点に立って、農村・村落研究を整理し、理論的・実証的に検討する。

氏名	河 村 能 夫	野
分野	農村社会学・経済学	

(1) 農村地域における社会経済開発のあり方（農業発展と地域福祉との相互関係の分析）

(2) 日本（滋賀県・京都府・兵庫県・北海道）アメリカ合衆国（カリフォルニア州）

(4) 「呼びかけ」に記されている①~⑦のテーマの内、④⑤を合わせた広いテーマで③のレベルに焦点を合わせたもの。例えば、(A)高齢化に直面する中山間地域社会の再編課題と方法。(B)グローバル化時代における農村社会の再編課題と方法。

(5) 今までの村研の業績を相対的に把握（普遍化）するためにも、また、今後の活性化の地平を拓げるためにも、(1)海外の農村社会を研究している者の加入を勧める、(2)海外での日本農村の研究者との直接的リンクを創る（加入やシンポジウムへの招待etc）、(3)海外の自国の農村社会研究者との直接的リンクを強化する（加入、シンポジウムへの招待etc）。

氏名	橋 本 和 孝	野
分野	地域社会学	

(1) 地域生活論

(3) リゾート開発、地域おこし

(4) リゾート開発、農村福祉

(5) ムラを中心とした発想で、現在の農村・農民問題を切れるのかどうか、疑問が多いです。

氏名	古賀倫嗣
分野	農村社会学

- (1) 地域振興及び地域政治構造
 (2) 熊本県下の農山村
 (3) 町村基本計画の分析
 (4) 村落と地方政府—農民の自民党離れ(?)など変動の局面を分析—

氏名	大坪省三
分野	都市社会学

- (1) 都市社会の構造と変動
 (2) 帯広市、諫早市、メトロ・ミニラ内マカティ町ほか
 (3) 向日および在日外国人労働者の生活
 (4) 農産物の自由化に対応せざるを得ぬための様々な努力、そしてそれらのことによる農家、農村の変容について。ことは必然的に欧米だけでなく諸外国の農業、農村に関する取り組みが求められると思われます。

氏名	野見
分野	農村社会学・経済学

- (1) 農村社会の近代化を合理的に促進する条件 (出来れば□改手法の発見)
 (3)(1) の基本的問題としての「イエとジショ」との関係の多様化の実態究明
 (4) 農村地域における「農業と社会」との結びつきについての、理論と

実態

氏名	大森正之
分野	経済学

- (1) ①環境経済論 (社会的費用論の検討)・エコロジー経済論 ②先進的稲作経営の今日的課題 (環境編的アプローチ)
 (2) 秋田県秋田市 (上記(1)に関して)

氏名	中野哲二
分野	農村教育論

- (1) 南西地域の農村青少年教育の展開と動向—鹿児島県における藩政期より現代まで—
 (2) 主として南西地域
 (3) ふるさと創生と地域社会 (コミニティ論とからまして)
 (4) 生涯学習体制下の農民の学習と地域社会をめぐる諸問題の具体的な研究
 (5) 東京中心の研究者ばかりで、様々な検討をせずに (抽象的)、将来も食料供給基地となるべき北海道、東北、九州 (とくに南九州) あたりの研究者が簡単に参加出来るような場をどんどんつくるべき (国立大学の研究旅費は私大よりも少ない)。勝手なことを中央ばかりで言

う時代ではない。若い研究者はもう少し農村を歩く事。

パソコンネットの利用)。

氏名	松 本 通 晴	野 分	農村社会学
----	---------	-----	-------

- (1)農村と都市
(2)①富山県利賀村—京都市②鹿児島県甑島—尼崎市

(3)住友煙害事件と町村長集団(愛媛県東予市、今治市)

(4)①農業、農村の復権②むら、いえ論の現代的総括

(5)ブロック単位の運営委員会および研究会の開催

氏名	野 分	農村社会学
----	-----	-------

- (1)①混住化現象に伴うむらの変化について②明治末～大正期にかけての村落構造について

(2)①南郷町木間塙地区②東和町曉峨立地区

(5)村研年報への投稿論文についてですが、小生は仕事の関係上なかなか村研大会で発表することができません。できれば大会で発表しなくても論文の掲載はできないかどうか検討いただければ幸いです。

氏名	嘉 田 由紀子	野 分	農村社会学
----	---------	-----	-------

- (1)①地域社会における環境問題②比較環境文化論③住民の自治意識と意思決定プロセス

(2)滋賀県下、アメリカ、中国、韓国などの湖沼地域

(3)住民のネットワーク化の手法について

(4)①環境問題のテーマ化②流動する現代社会における農村の地域問題(リゾートなどを含む)

(5)①研究年報を読みやすく、かつ流通しやすいものにする。②遠隔地にいる研究者同志をつなぐ情報網のようなものを工夫する(たとえば

氏名	二 宮 哲 雄	野 分	農村社会学
----	---------	-----	-------

- (1)北陸の地域社会—伝統・再生・アメニティー

(2)①石川県辰口町②石川県野々市町③金沢市

(3)①混住化社会とコミュニティ②国際農村社会学的比較研究

(4)①混住化の進展に伴うコミュニティ変容過程の研究②農村社会についての国際的比較研究—日本の視点から—

氏名	玉 井 康 之	野 分	農村社会学・農村教育論
----	---------	-----	-------------

- (1)①農村集落における技術の交流と再編成②北海道農村における連合集落の歴史的展開と学校

(2)①北海道栗沢町茂世丑集落②北海道阿寒町仁々志別集落

(3)①農業生産交流における都市と農村②農村再編方策と農民教育

(4)①危機下における農村振興方策②農村再編と関係機関の役割

(5)農村計画学会がでてから、村研は全く先を越されているようだ。

「イエ、ムラ」にこだわる必要は全くなく、純農村地帯ならば農業再生をどうするか、全くの兼業地帯ならば生活環境の改善をどうするかを支柱にして、農家間の関係や関係機関の援助のあり方を考えるべき。関係が先にあるわけではない。社会教育的な発想が求められている。現存の関係を解釈しても前進はしない。

氏名	中 島 静 司	野 分	郷土史・有機農業
----	---------	-----	----------

- (1)①明治以降の農業発達の過程②有機農業について
(2)①新潟県十日町市②新潟県内一円一概要のみ

氏名	
分野	農村社会学

- (1) 農家多世代家族における生活協定
 (2) 北関東
 (3) 中山間地域の活性化

氏名	大島 真理夫
分野	経済史

- (1) 近世農民支配と家族・共同体
 (2) 岡山、徳島、熊本、山形（予定）
 (3) 戦前期日本資本主義における国家と経済－戦争と重拡の経済的影響－
 (5) 「呼びかけ」(3)の①、⑥、とくに⑥に関心あり。その際、村落社会の枠組の上からの設定（行政村、組合 etc.）を重視し、各國における設定の違いと歴史的变化、それと農業実態との関連を考えるよう企画を望む。

氏名	鷹田 和喜三
分野	農村社会学・民俗学

- (1) ①北海道根釧地方の漁村の形成と漁業移住の社会的背景②北海道根釧地方の農事組合型村落の形成
 (2) ①釧路市および近辺町村の漁業集落②標茶町、中標津、別海町の昭和初期入植村落
 (3) ①北海道村落の講集団成立過程②北海道の村落類型
 (4) 環境問題や「ニュー・ファーマーズ」の研究など、新しい視点から共通課題を希望します。

氏名	
分野	農業経済学

(1) 地域資源の管理と環境問題

- (2) 東海地域と中国地方山間部
 (3) 上記(1)にかかる外国の実相

(4) ①イギリスのナショナルトラスト運動は、自然・環境保全問題と土地所有問題を考えるうえで、もっと研究を深めるべきと思う。日本ではほとんど研究されていない。②持続的農業の定着と農村研究。

(5) こういうアンケート、村研ならではだと思います。

氏名	八木 佐市
分野	民俗学

- (1) 村落の伝統性・変動性
 (2) 広島県内の農山漁村
 (3) 韓国農村とセマウル運動

氏名	荒 横 豊
分野	農村社会学

- (1) ①コミュニティ形成②むらおこし論③生活構造論
 (2) ①福井県上中町②長野県栄村③愛知県足助町④富山县山田村⑤その他全国各地

(3) ①農村婦人の生活態度（イエ的観念の克服をめざす婦人の現状と課題）②農村の嫁婚問題（例えば、外国人花嫁は、農村保全か人権問題か）

(4) 各地で内発的なむらおこし活動が展開しているにもかかわらず、例えば過疎を脱却した町村はほとんどない現状です。むらおこし活動の可能性と限界について討議することこそ有益なのではないか。

(5) 従来の村研の研究態度は第三者的に村落社会をながめ、観察するものであったように思われる。今日、村落そのものが消滅の危機にある訳で、村落を守る立場から手法の開発や政策提言していくことが大切なではないでしょうか。

氏名	中田 実
分野	農村社会学

- (1) 地域組織によるその領地の管理の形態と発展
 (2) ①愛知県新川町、岡崎市②三重県四日市市
 (3) 地域住民組織の国際比較
 (4) 農協は今変わりつつあります。一九五二年には I.C.A (国際協同組合同盟) の大会が東京で開かれます。農業の担い手の一主体として注目していいテーマだと思います。
 (5) 大会は交通の便のいい所で開催し、別途に現地見学会的なものを行うことにしたら、出席者もふえるのではないかでしょうか。

氏名	野 農業経営学
分野	農業経営学

(1) 水田農業の技術進歩と経営管理に関する研究
 (2) 北陸等の水田地帯
 (3) 農地等の利用調整主体の形成・発展過程など
 (4) ①変貌する地域経済社会と農業・農村の役割—日本農業の地帶構成の再検討②農村研究の国際的比較—アジアとヨーロッパの農村の将来
 (5) 現在の運営に付け加えるものがあるとすれば、学者、研究者以外の実践者（行政マン、集落リーダー等）との交流にさらに努力しても良いのではないか。

氏名	林 雅孝
分野	農村社会学

- (1) ①農村の記録保存②農村の変化分析③新たな「農政理念」
 (2) ①過疎農村②大都市周辺の農業地区
 (4) 國際比較論の積極的導入
 (5) ①実質的に質の高かった「村研通信」的なものの「脱皮した新型式」での継続②宿泊、徹宵談論型式一すばらしかった一の「脱皮した新型式」での継続③「国際比較」や「都市との比較」などの積極的導入（以上、イメージだけで相すみません）

氏名	野 全国農協中央会職員
分野	全国農協中央会職員

(1) 世界（とくにEC、アメリカ）の農業実態の情報収集
 (3) 農産物市場開放と協同組合原則、農産物市場開放とCooperative Marketing Strategy
 (4) ①地域富農と農家②農家と地域社会
 (5) あまり勉強していないので、そんな程度ということで一言。①村研のレポートが実践の上でどう役に立っているのか疑問。事例研究や細かい関心事はさておき、解決策へのダイナミズムが欲しい。②①の意味でP.R不足だし、会員が広く参加できる機会の設定ならびに村研組織の「元気化」を!!

氏名	野 行政学
分野	行政学

- (1) 日本資本主義と國家神道
 (2) 信州諷訪地方
 (3) 年齢階梯制と同族団構成
 (4) 民俗社会としての村落の研究方法
- (1) 過疎自治体における行財政活動の特徴
 (2) 島根県（石見地方）
 (3) ①福祉と医療に関する行政②広域行政の新展開

氏名	高橋正郎
分野	農業経済学

- (1) ①食品産業の構造とその展開 ②地方農業構造の変革について
 (2) スーパーマーケット、外食産業
 (3) 農業の担い手不足による地域農業の荒廃
 (4) 地域農業の衰退と村落

氏名	酒井俊二
分野	農村社会学

- (1) 日本社会の構造的・機能的諸特長—日本社会のcohesionを中心として—
 (2) 京都府与謝郡伊根町字亀島（丹後半島漁村）
 (3) 村落の国際比較からみた「イエ・ムラ」

(4) 「イエ・ムラ」論再検討（「イエ・ムラ」論を日本社会の原組織「企業組織など近代的組織と共通した組織的性格」とのかかわりという

広い視野からの再検討）

(5) 運営会員が「社会学評論」一五〇号で試みているような過去の村落

氏名	中野芳彦
分野	農村社会学

社会研究の方法論の再検討（反省：なぜ非生産的であったか）も必要と思われる。

(1) 有機農業運動。とくに都会に住んで「無農薬」とか「安全」とかといっている人たちに、自分が農業について何も分かっていないのだと

いうことを体験を通して知つてもらうための実践（「三芳自然塾」の運営など）をかさねることで展望を見出したいのです。

(2) 千葉県安房郡三方村。調査対象というより行動の場といった方が当たっているかも知れません。

(3) 農業や農民が生き残り、さらに再生をはかつていくための方策は何か。さしあたり農民と都合人などが共生できる「開発」のありかたに関するもの。

(4) 運営委員会で出たというテーマの③、④、⑤、とくに④、⑤あたり。研究態勢もいまのままでは、こうしたテーマは難しいとは思います

が……。

(5) 「研究通信」でうかがう限り、現代を超越したかのようなアカデミックな議論がさかんで、農民の近くにいて彼らの切実な問題の解決に自分の無力を思い知らされ続けているものには、とてもついていけません。このままでは「農村社会学栄えず、農業、農民亡ぶ」といったことになるかも知れません。もっともそういう不安も先きの短い年寄りの焦りからでしょうが……。

氏名	森芳三
分野	経済史

(1) ①イギリス紡績史、とくに綿花飢饉について②山形県下の製糸業史—「羽前エキストラ」の経営的特色

(2) 上記(1)に関して、山形県置賜地方の地方都市と農村

(3) 現在生協の行っている地域協同社会づくりのいみ—現在の危機克服のあり方、ロバートオーエンの提案とのかかわりにおいて—

(4) 地域社会＝コミュニティ再生の具体的実施をとりあげ、検討をしてゆくこと。

氏名	古宮洋
分野	農村社会学・農業史

(1) ①農業後継者問題②千葉県の伝統的行事、儀礼、農法

(2) 千葉県

氏名	岩本由輝	分野	経済史
----	------	----	-----

(1) 戦後東北地方で実施された巨大プロジェクトが村落(地域)社会にいかなる影響を及ぼしたかをみる。

(2) ①秋田県南秋田郡大潟村(八郎潟十拓地) ②青森県東津軽郡今別町・

三厩村

(3) ①柳田國男による日本社会の把握に対する批判的考察 ②村落史・共同体史全般については私にとって永遠のテーマである。

(4) 経済史の立場にあるものとして、かつてのようすに村落史にかかるテーマ設定が望ましいが、それが多くの会員の関心につながるかは疑問である。ただし「イエ・ムラ」論を今後において展開するには村落史視点をかかすことはできないと考える。

(5) 運営委員・宿題委員をやって来た経験からいって、「笛吹けど踊らず」という会員の意識状況に無力さを何回も痛感した。運営委員の総

入れ替えをやって発想の転換でもしないかぎり、この状況は変わらないと思えるし、そのようにしてもいい結果を生むかという点ではしさか悲観的にならざるをえない。

氏名	野
分野	農村社会学

氏名	小林公能	分野	農村社会学
----	------	----	-------

(1) 地域農業システムの創造

(2) 長野県中野市

(3) むら総有の再検討

(4) むら総有の再検討

(5) 若い研究者の意向と動向を大切に

(1) ①高度資本主義社会における「都市と農村」関係問題 ②近代日本村落史の整理

(2) ①茨城県牛久市域農村 ②沖縄農村

(3) 家族制農業の社会的存立基盤(現在におけるイエ、ムラの再検討のために)

(4) 戦後日本農村社会の存立条件(農村は消滅するのか、消滅しないとすればその積極的根拠は何か)

(5) 鳥越メモに基本的に同感する。宿題委員あるいは運営委員は求められれば(出席不能の場合)、必ずレターで事務局におくること。

氏名	野
分野	農村社会学

(1) 戦後農政の変遷における地域農業のあり方とその経済的波及効果による地域振興

(2) ①静岡県榛原町 ②長野県栄村 ③北海道十別市

(3) 村落社会の変遷における環境問題の位置づけと今後の展望

(4) 村落社会においてグループ活動が必要になってきた背景とこれに対する社会分業論の立場からの見証

氏名	野
分野	経済学

(1) 稲作経営の国際比較

(2) ①海外ではオーストラリア ②国内各地稻作農村

(3) 国際化と日本農業の運命

(4) 海外(主に東南アジア)の農業・農村・農民問題

氏名	高橋明善	分野	農村社会学
----	------	----	-------

- (1) ①直系制家族の変容・解体過程の研究 ②比較農村論
 (2) ①ジャワ ②沖縄（今年度は科研費交付の年のため国内各地を調査するつもり）

(4) 「現代農村の社会問題」とでもして、アンケートの中から多様な課題を系統的に整理し、整理できた課題別に自由な報告を求める。村研会員の多様な関心を全面的に学会に解放する必要がある。

氏名	秋津元輝	分野	農村社会学
----	------	----	-------

- (1) ツキアイからみた近畿のむらの研究
 (2) 滋賀県

(3) ①企業的農業経営者の生活史・理念の研究 ②環境問題（環境問題をめぐる地域社会の対立と協調）

(4) 農村（村落）リーダー論

(5) 「村落社会問題研究会」ではないのだから、問題への関心とともに常に村落社会の原理に迫るような志向性をもちたい。

会学的研究

(2) ①長野県丸子町 ②北海道網走地方（湧別町、上湧別町、遠軽町）

(3) 農業生産に関わる主体としての個人や集団を単位とする分析ができるかと考えている。今まで家・村の単位の重みを重視しすぎて、個人や、機能的集団、関係にあまり目がいかないか軽視する傾向があるように思われる。

(5) 大会以前に行われている研究会が大会や村研の研究活動に生かされることが少ないよう思います。折角会員外との交流をもちながら大会や年報などの面に反映されていないように感じます。その結合の仕方に工夫がいると思います。

氏名		分野	農村社会学
----	--	----	-------

- (1) 地域振興と村落社会
 (2) 東北地方の農・山・漁村

(3) ①環境問題—農民・漁民の対応、思想など ②農村高齢化

(5) 大きなるマンエリ化も結構かと思います。ただ、毎年の開催期日が、農作業の忙しい時期と重なることに頭を痛めております（天気も学会も待ってくれませんので）。

氏名	吉沢四郎	分野	農村社会学
----	------	----	-------

- (1) 辐地村落の崩壊過程
 (2) ①三重県志摩地方（漁村）②愛知県東三河地方（山村）
 (3) 庶民生活史の方法

(4) アンケートの③、地方、地域、コミュニケーション論の検討

氏名	後藤和夫	分野	農村社会学
----	------	----	-------

- (1) ①農林工業化と住民生活の変容 ②地域社会における定住と移動の社

(4) 農業の存立が問われている現在、農業の基本問題をとりあげることが必要であり、課題の一つは日本農業の担い手像の明確化、もう一つ

は農業のもつ環境問題（正の効果と負の効果）の解明があげられる。

- (5) ①研究会は結局は個々の研究者の創造的研究がなされるかどうかにかかると思っていると思う。知的刺激に富む研究会にしたいと念願しています。②自由に発表する大会とすること。③会員は年報を個人で必ず購入すると同時に、図書館などで購入して年報発行の経済的条件を確立すること。

氏名	木嶋正浩
分野	経済学
氏名	

- (1) 大正期農業団体の政策論的研究—系統農会による米投売防止運動—
(2) 茨城県
(3) 地方改良運動、民力涵養運動と農本主義

氏名	星永俊
分野	農村社会学・教育社会学
氏名	

- (1) 地域社会の社会変動と組織化に関する研究—特に生涯学習体制整備との関連で—
(2) 茨城県
(3) 地方改良運動、民力涵養運動と農本主義

氏名	阿部徳三郎
分野	農村社会学・経済史
氏名	

- (1) 地域社会の社会変動と組織化に関する研究—特に生涯学習体制整備との関連で—
(2) ①茨城県
(3) 地方改良運動、民力涵養運動と農本主義
(4) 地域農政と農村
(5) 手数はかかっても今回のように五年に一回位会員の研究テーマや共通課題などについてアンケートを取り、一般会員より離れた運営はすべきではない。

氏名	農業経済社会學
氏名	

氏名	野
氏名	農村社会学

- (1) 農村女性の社会ネットワークと組織活動
(2) 茨城県内

- (3) 都市住民の農村観とマスコミ
(4) 混住化地域等の限定をつけた課題

氏名	菅野俊作
分野	経済学
氏名	

- (1) 資本と入会
(2) 東北地方

- (3) ①皇室財産と日本資本主義②中国農村の構造変化
(4) ①ケニア②沖縄

氏名	野
氏名	農業経済学

- (1) 地域経済開発における家族制農業の推進過程
(2) ①ケニア②沖縄

- (3) 食物史

- (4) 静態的になりがちな「イエ・ムラ」論の中に、歴史性であるとか時代性（現代的危機）を背景におくことで、議論が立体的に展開するのではないか。個別事例のつみ重ねも大切だが、それを統合する「中間理論」の提示の方向性があつたらいいと思います。

氏名	野
氏名	社会意識論
氏名	

- (1) ①社会意識研究の行為論的展開②日本近代化における東北農民の主体的対応
(2) ①岩手県輕米町車門部落②岩手県和賀郡湯田町及び沢内村
(3) 有機農産物をめぐる産消提携運動と自給運動

(4)農村研究（村落研究）のイデオロギー性（戦後村落研究の反省のために）

氏名	多々良 翼
分野	農村社会学

(1)①農業生産組織の展開と農業後継者問題②家・農家の変容（「家」のモノグラフ）

(2)①十和田市豊良②山形県酒田市③松本市島内④佐賀県東与賀町

(3)東南アジア（インドネシア、タイ）における村落の変容

(4)「農村社会編成の論理と展開」をもう少し継続的に。まだ解明されねばならない問題が山積みしていると考える。

氏名	古川彰
分野	農村社会学

(1)①環境問題②村落祭祀と祭祀集団

(2)①滋賀県②ネパール山岳地帯（チベット系住民のシェルバ族）

(3)「エスニシティと国家」というテーマは環境問題とも深く関係していき関心がある。（国境と民族を越えて生起する環境問題とそれへの対応、その時の自民族文化の変容というテーマ）

(4)「環境問題」を通じて都市と農村の問題を現時点でとらえ直してみる。「環境問題」のところは福祉でもなんでもよい。

(5)報告は限りなく具体的なものでもよいし、毎年テーマが変わってもよいが、「意味」のレベルで通底させる為の方法と方法を具体化する

装置を工夫する必要があるように思います。

(2)①兵庫県三原郡榎列地区②京都府網野町木津地区など

(3)①戦後の農業補助金政策の研究②日本の農民に関する社会史的研究

(3)産直等の研究

(4)課題発見のため国際比較をやってもらいたい。

(5)若手のエネルギーをもつと生かす運営を。「研究通信」にもう一工夫を。

氏名	黒柳晴夫
分野	農村社会学（ただし農村社会学の視点から）

(1)現代ジャワ農村の家族と村落構造

(2)インドネシア・ヨグヤガルタ特別州内の農村（ジャワ島）

(5)大会が週末を利用して開かれないため、勤務校の都合で出席しにくい。また、大会の会場がややもすると交通に不便をきたす場合が多く、これも出席しにくい（大会のあり方についてかねてより気になっていた点です）。

氏名	中村正夫
分野	農村社会学

(1)①対馬藩の郷土制度②宗像市史③津屋崎町史

(2)①対馬②福岡県宗像市③同津屋崎町

(3)①近世天草村落の社会構造と人口問題（当面「宗門改帳」の分析）②明治前期、行政組織の変遷（戸籍区、大区小区制、郡区町村編成法等）

(4)現時点における村落機能

(5)①共通課題を2または3とし、会員の研究テーマの多様性にできるだけ対応すること。②（上記とも関連するが）自由報告を増やすこと。

(1)日本の近現代における農民家族の経済史的分析、および農民家族の国際比較

氏名	庄司俊作
分野	経済史

氏名	藤井和佐野
分野	地域社会学

(1)日本の地域政治構造

(2)①三重県阿山郡阿山町②三重県鳥羽市

(3)地域政治文化の維持と変容のあり方を地域的・歴史的に比較する。

その際、都市（マチ「伝統社会」）であった所と新興団地等や混住地域を含む）も視野に入れたいし、また、都市と村との連続性について考

えてみたい。

(4)一つのテーマにそって、いろいろな分野の方に共同研究をやっていただきたいと思います。その際、アプローチの仕方を統一する必要はないと思いますが、むずかしいでしょうか？

(5)大会開催地がユニークのはいいのですが、院生にとって遠隔地に赴くのは経済的にかなりの負担となります。貴重な説論を拝聴できる

せっかくの機会なので、若い人たちもなるべく参加しやすいよう御配慮いただきたいのですが。

氏名	野
分野	法社会学

(1)農業法と社会

(3)食糧・環境問題

(4)食糧管理法と農村問題

(5)法社会学者・法学者が参加できるようなテーマも、研究課題としてもらいたい。

氏名	青木志郎
分野	農村計画

(1)①農村集落における土地利用計画に関する研究②集落地域整備法に関する研究③農村の景観に関する研究

(2)①山形県飯豊町椿地区、手ノ子地区②群馬県境町③新潟県山田町五郎丸集落

(3)リゾート開発による中山間農村の農村集落の構造的变化（集落計画的視点から）

氏名	若林敬子
分野	農村社会学

(1)①農民意識②過疎問題③中国における都市と農村－農村余剰労働力の“転移”

(2)①愛知県富山村②千葉県浦安市（ちょっとごぶさたしていますが）

(3)埋立開発に伴う環境破壊と地域社会の変動

(4)新過疎・東京集中の農村の側からみた新状況分析

氏名	中澤進之右
分野	農村社会学

(1)日本農業の再生と農村の活性化を根底にした実証的研究。主として過疎地域の住民意識、後継者問題、老人問題などの実態把握と具体的な方策の提示。

(2)長野県南佐久郡過疎三町村（小海町、南相木村、北相木村）

(3)①農産物の自由化問題②農業・農村の高齢化問題③90年代型農業・農村の方向性、戦略のこと

(4)①時代の変化、会員の多様化に応えて、共通課題も設定すべきと思う。②日本農業・農村が“国際化”的の名の下に停滞化を余儀なくされている時だからこそ、脱却のための方向性を提示できる共通課題がよい。

(5)①“研究通信”を更に充実させて、会員相互の情報誌的な内容にして欲しい。②若い研究者の意見を反映させるために、運営委員会には一定の枠を設けて、20代前半、20代後半、30代前半の会員を選出して

はどうだらうか。

氏名	布木岸男	野	農業經營
----	------	---	------

(1) 集落宮農など農業經營の新しいシステム化

氏名	藤井勝	野	経済学
----	-----	---	-----

(1) 「地域労働市場」における雇用と失業

- (2) ①長野県伊那市②新潟県龜田郷

(3) 農業的な土地利用と都市的的土地利用の調整と農民・農村組織との関連

(4) 農村地域での土地利用と農家・農村・組織のあり方と限界について

氏名	藤井勝	野	農村社会学
----	-----	---	-------

- (1) 日本の家・同族・村落(→伝統的社会構造)
 (2) 長野県佐久市今井地区など

(3) ①現代における家や村落の論理の展開②伝統的家族や村落の国際比較

(4) ①共通課題は必要であると思うが、大会や年間の研究会をそれに焦りすぎることはないのではなかろうか。②あるいは、複数の共通課題を設定し、会員は自分の関心にあつ共通課題にかかわるようにしてはどうか。

(5) 現在の会員は、社会学・経済学・農学の分野を中心にしているよう

に思えるが、今日までの日本村落研究で重要な位置をもってきた、法社会学、人類学(民族学)などの人々も加わるようにする。そのためには、共通課題の内容の幅も広くする必要があるのでなかろうか。

氏名	石原豊美	野	農村社会学
----	------	---	-------

(1) 山村への(村外からの)流入定住者および別荘利用者に関する調査研究

- (2) 東京都西多摩郡檜原村

(5) 初学者(?)が参加しやすい小勉強会のようなものがあればよいと思ひます。

氏名	鳥越皓之	野	農村社会学
----	------	---	-------

(1) 環境保全

- (2) ①淡路島②韓国

(3) 東アジアの家族・親族

- (4) ①「イエ・ムラ」論の意義と問題点②環境保全型農林漁業の可能性

氏名	青井和夫	野	家族社会学・小集団社会学
----	------	---	--------------

(1) 長寿社会論

(2) 文部省の海外調査研究費にて中国の農村と都市の調査を実施する予定

(3) 理論社会学的な総括を最後に行いたいと思っています。

(4) 別にございませんが、「日本の農業と農村をこれからどうするか」など、どうでしようか?

氏名	戸谷修	野	農村社会学
----	-----	---	-------

- (1) 沖縄社会の構造と変動
 (2) 沖縄農村
 (3) 東南アジア島嶼部地域の農村社会

(4)①現代の農政、農村の現状について②国際比較論の積極的導入も加えます。

(5)現代日本の農業政策に提言できるものが必要ではないかと思っております。

氏名	村 松 和 則	野 分	農村社会学
----	---------	-----	-------

(1)スポーツ・リゾート開発と山村振興

(2)福島県南会津郡一帯

(3)①身体の社会学②有機農業運動の地域的展開

(4)基本的にイエ・ムラをおさえる事は大切だと思いますが、テーマをもつと現代社会のホットな問題とリンクさせていくことが必要だと思います。また会員外の人をバネラーに入れて議論を楽しくしていくのが良いと思います。環境問題は扱うべき課題ではないでしょうか。

(5)会員外の人々を積極的に誘って、論争をしていくような雰囲気が出るといつも思いますが…。

氏名	宮 崎 勉 行	野 分	農業法
----	---------	-----	-----

(1)①農業法人、とくに共同経営その他協同組織についての法人化②農家の家族協定（父子契約）

(2)①山口県阿東町徳佐地区、とくに有限会社船方総合農場グループ（みどりの風協同組合）②山口県小野田市南高泊干拓農協

(3)企業・資本・国家（政府）による土地の買収・開発、とくにリゾート開発に対して、ムラが、何らかの歯止めとなり得るのか。

(4)日本の集落・村落と西ヨーロッパの rural community（もしくは commune）との比較研究。

氏名	山 本 英 治	野 分	農村社会学
----	---------	-----	-------

(1)農村と都市との構造的関連
(2)沖縄

(3)農業・農村と農政

(4)新農村共同社会形成論の検討。実証をふまえた新しい農村社会の理論研究が必要。

氏名	牧 野 譲 男	野 分	教育社会学・地域社会学
----	---------	-----	-------------

(1)①地域社会と大学との関連に関する研究②地域高等教育論

(2)全国（日本）とアメリカ

(3)地域教育論、余暇論、コミュニケーション論、青少年論（青少年の社会学）、女性の発達社会学

氏名	松田（熊谷）苑子	野 分	農村社会学・家族社会学
----	----------	-----	-------------

(1)機械化一貫体系に伴う農家生活構造の変化—生活時間データを用いて—

(2)①岡山県②山形県

(3)村落構造論（農地改革以降について、特定の理論枠組を前提にせず、労働市場、市場構造、価値観などの変化と関らせ）

(4)②について最も関心をもっています。④、⑤、⑥も今日の状況のものでは、緊急の課題と思います。

(5)研究会の回数を増やしたり、大会の日数を長くしたりするのは無理だと思いますが、気軽に自らの意見を、披露しあえる場がほしいと思います。同時にその調査結果を、累積していくような討論も必要だと思います。

氏名	細 谷 昂
分野	農村社会学

- (1) ①存亡の危機に直面している日本農業の担い手としての農民像と家・村のあり方如何の問題②近代日本における地主の地域体制の形成過程
 (2) 主として山形県庄内地方
 (3) 中國農村の「現代化」の実態

(4) 存亡の危機に立つ日本農業の担い手如何という観点から、「イエ・ムラ」論を再検討し、それらの新しいあり方をさぐる（「呼びかけ」2ページの①②にかかるテーマ）。
 (5) できるだけ若い世代に活躍してもらうとともに、中高年年代にも年を忘れてがんばってもらおう。

氏名	神 谷 力
分野	法社会学

(1) インドシッキム (sikkim) 地域における家族・村落制度の法社会学的研究
 (2) インドシッキム地域

氏名	神 谷 一 夫
分野	農村社会学

(1) 農村社会におけるネットワーク結合の実態とその機能
 (2) ①岩手県遠野市②秋田県大雄村、仙南村
 (3) 生活指標、社会指標による農村生活の把握
 (4) 地域、コミュニティ論の検討

- (1) 山村の高齢化と限界集落
 (2) 高知県物部村別段地区

氏名	細 谷 昂
分野	農村社会学

- (3) 海洋資源問題と漁業・漁村―高知県佐賀町のカツオの一本釣りを中心にして
 (4) 現代山村の構造―その論理と展開
 (5) 村研四十周年を迎えるにあたって記念すべき大会の開催―その準備と内容検討を!!

氏名	関 順 也
分野	経済史

- (1) 地租改正
 (2) ①四国②九州（これから予定）
 (3) 明治初期の農村社会について
 (4) 全国的な比較ができるように配慮されたい。

氏名	佐 藤 幸 也
分野	教育学

- (1) 農村社会におけるネットワーク結合の実態とその機能
 (2) ①岩手県遠野市②秋田県大雄村、仙南村
 (3) 戰後、公教育における農業教育及び社会科における農村の取扱いについて。
 (4) 村落の置かれている状況を、いかに国民の共通課題として位置付けるか。

氏名	小 林 一 穂
分野	農村社会学

- (1) 農業生産組織（稲作を中心に、集落、生産組合、有志共同グループ）の展開の分析
 (2) 山形県庄内地方
 (3) 農民意識（農民の“農”へのこだわり―兼業化が深まりつつも滞留している現状―をとらえる）

(4) 「農業危機」の解明と今後の日本農業の展望を見出す、という点でテーマ化できたら、と思います。

(5) 国際化、学際化が深まるなかで、「村落パラダイム」が拡散していると思います。専攻分野別ではなく、問題分野別の宿題小委員会といったものを考えてはいかがでしょうか。

アーティスティックなこと、②打開を求める個人、運動のモデルケースを発掘すること。

氏名	柿崎京一
分野	農村社会学

(1) ①漁業村落の社会変動②近代日本の家の構造分析③中国農村の社会変動

氏名	木更津市金田地区（東京湾横断道接続予定地区）②岐阜県大野郡白川村③中国・北京市近郊及び山東省
----	------------------------------------------------

(3) 地域生活における「近隣」関係の再検討
(4) 「むらづくり運動」のめざす「むら」の内実について検討する。

氏名	長谷川昭彦
分野	農村社会学

(1) 過疎地域における地域振興と集団活動
(2) ①長野県栄村②富山県山田村③静岡県榛原町
(3) 農村における「いえ」と家族関係
(4) 「地域」「コミニティ」論の再検討

(5) この際、名称も「学会」にして、例えば「村落社会研究学会」として、それにふさわしい組織、運営を考えてみてはいかがですか。

氏名	農村社会学
分野	農村社会学

(1) ①アジア農村の変動過程の比較研究②沖縄のいえとむら
(2) ①東南アジア（とくにタイ）②沖縄本島
(3) 資本主義化と農地買占問題
(4) ①「イエ・ムラ」論の意義と問題点に関する現代的総括②農業・農村の文化的存在意義の国際比較研究③協同経営の新しいあり方の検討
(5) 農業の存亡をかけた危機の状況にあって、①現代的問題関心をクリアすると、歴史経済学的な地主制などに関する発言・発表などは、まつ

たく異質なものという感じがする）。一度、共通の課題をやめてみたらどうか。

アンケート結果について

- 一 今回回答を寄せられた会員は一〇一名でした。前回のアンケート（六三年実施）では一七一名の会員から回答がありましたので、人数はかなり減少しました。事務局から一定の方向性を提示したとはいうものの記述箇所が比較的多かったなど、アンケートの実施方法も多少関係があるかもしれません。
- 二 しかし御覧のように、いくつかの質問項目に対してさまざまな意見・回答が寄せられました。特徴的な点を一点だけ指摘しておきたいと思います。
- 三 「共通課題に関する提案」については、事務局の「呼びかけ」にある「国際比較」を求める会員が最も多くを占めました。その内容については多様ですが、他の回答と同様とりあえず問わないことにします。以下、「環境問題」、「イエ・ムラ論の現代的総括」、「ナショナル・トラスト運動、リゾート、担い手、むらおこし等」、「地域・コミュニティ論」、「イエ・ムラ論の非有効性」、「農協等の農民組織論、行政と村落との関連など」と続きます。
- 四 「村研の運営全般に関する意見」については、「運営委員の若返り、若手の活躍」を指摘する会員がかなりの人数に達しました。以下、「大会の持ち方」、「研究会の持ち方」、「『研究通信』の工夫」、「アンケート実施を評価」、「研究交流の必要性」、「『年報』の工夫」、「共通課題にこだわらない」と続きます。

(事務局)